

受賞名	入選	部門名	建築部門
作品名	Casa Eri		
応募者名	YSLA Architects 山村 健、ナタリア・サンツ・ラヴィーニャ 東京理科大学 宮津 裕次		
住宅の概要	住所 埼玉県越谷市	構造・階数 木造2階	延床面積 76.29 m ²
環境への工夫	<input checked="" type="checkbox"/> 1 自然材料の利用や資源循環の長寿命化に関する工夫 <input checked="" type="checkbox"/> 2 省エネ設計手法に関する工夫 <input checked="" type="checkbox"/> 3 自然と共生し、自然通風など自然力利用に関する工夫 <input checked="" type="checkbox"/> 4 地域の林業、気候風土・歴史的技術の継承などへの工夫 <input type="checkbox"/> 5 災害時でのLCPが継続できる工夫 <input checked="" type="checkbox"/> 6 その他の独創的な工夫		
作品の説明	<p>外装材・外構は自然素材のみを使用した。地盤改良のための木杭は通常のコンクリートに比べ資源循環の観点から環境負荷が少ない。また、地震力の作用を軽減するダンパーを設置し建築物の長寿命化を図り、これからの木造住宅の在り方を提案している。以上は、1 自然材料の利用や資源循環の長寿命化に関する工夫に該当すると考えている。</p> <p>既存家屋との間の庭をなるべく広く残すこと、既存の和室への日照やリビングへの通風などの住環境を維持できるように住宅のヴォリュームを工夫した。同時にご近所の通り庭と公園の緑の空間を敷地に呼び込み既存の環境と共生する住宅を実現した。窓の配置なども丁寧に検証し、前面の公園から風を室内、庭、既存家屋まで通せるように確保したことで年中自然通風の十分なコロナに強い住宅を実現した。また北面に大きく開かれたフルハイトの窓から主室である「ゴロゴロ」スペースに一日中柔らかい光が差し込み、快適な室内環境を実現している。また同時に庇で強い日差しを遮りながらも常に明るく快適な屋外のウッドデッキの空間を創出し、既存家屋のご両親とのつながりが生まれるようにした。以上は2 省エネ設計手法に関する工夫、3 自然と共生し、自然通風など自然力利用に関する工夫に該当すると考えている。</p> <p>前述の北の庭と風の動線は日本の坪庭の手法を現代的に再解釈した点は地域の林業、気候風土・歴史的技術の継承などへの工夫に該当すると考えている。</p> <p>階段手摺や書斎出窓、玄関窓、寝室のふすま絵など現代的なインテリアを創出した。このように日本の数奇屋建築の伝統への参加し、住みやすい住環境のための意匠を凝らした点は、4 地域の林業、気候風土・歴史的技術の継承などへの工夫、6 その他の独創的な工夫に該当すると考えている。</p>		

講 評	<p>第一印象はデザイナーハウスだと思いました。詳細に見ていくと、環境に配慮された工夫が多くなされているのに気づきました。杭に丸太を利用されていますが、木材利用によるカーボンストック効果や低コスト化 が図られ、森林整備の促進に大きく貢献することが確認できました。さらに外環境から緑を視覚的に取り入れる工夫や、光や風を季節的に上手く取り入れる工夫等、心温まる環境配慮型の住宅だと評価しました。(講評者：秋元委員)</p>
-----	---